

満堂の参詣者、五日間にわたり諸行事を勤修

真宗学寮百周年

しんしゅうがくりよう

去る十月一日から五日まで、
音の真宗学寮で、創立百周年記念の諸行事が五日間にわたって行われました。



記念シンポジウムの様子

真宗学寮とは一九〇六(明治四〇)年に高松悟峰(勧学)を学頭として、広島市に創設された浄土真宗の私塾。一九二二(大正十三年)より本山認可広島仏教学院も併設。第三代学頭には岩崎俊雄(西教寺前住職)、現在は学寮教授として岩崎正衛(西教寺住職)、広島仏教学院講師として私(編集者)もお世話になっています。

一日は、慶讃法要と、梯實圓(本願寺派)学・行信教校長)先生をお招きして記念講演が行われました。

また同日、「安芸門徒の百年と真宗のこれから」と題して、記念シンポジウムも行われました。安芸

の百年を振り返り、過去の現在の光と闇を明らかにし、未来を見つめようというわけです。パネリストは梯實圓先生(前出)・松田正典先生(広島大学名誉教授・同大学仏教青年会理事)・水原史雄先生(元中国新聞記者・著書に『安芸門徒』・藤澤桂樹(本願寺派)学・真宗学寮教授)。

コーディネーターは私(編集者)、アシスタントを築田哲雄(広島仏教学院講師)がとめました。パネリストからは、仏さまに手を合わせる生活習慣の意味、仏法を学ぶこと、特に「会説」(註①)が重要であったなど、「光」についてさまざまな意見が出されました。また、「どうして安芸門徒は戦争協力をし、戦闘機を献納したりするようなことになったのか」(藤澤)、という発言を皮切りに、戦時教学

を支えた「真俗二諦」という教義の問題(註②)など、「私たちは、国家に対してあまりにも無批判であった」(梯)と「闇」についての意見も出され、参加者一同真剣に聞き入っていました。

さらに、三日・四日・五日は、深川倫雄・霊山勝海・稲城選恵(いずれも本願寺派)学)先生にそれぞれお越しいたいただき、記念法話を頂戴し会説のご指導をいただきました。

その他、御示談(仏法・人生の質疑応答)や節説教(註③)などさまざまな行事が行われました。(法要や各先生の「法話・シンポジウム」などを収録したDVDが近日発売予定)

念仏者の生活について、真諦(浄土往生・成仏の教えである仏法)と俗諦(この世の倫理道徳である王法)という二つの生き方(生活原理)について説いた教え。この世では「皇国の忠良となり(朝敵を撃滅し)、来世には「西方の往生とげ、永劫の苦難をまぬかるる身となる」ことを教えた。親鸞さまの教えにはない。

黒板を使わず、高座に座り、通常の語りと節のついた語り(お聖教のご文)などに節をつけて語る)を取りまぜ、身振り手振りを交えてするお説教の大衆化した形。落語・講談・浪曲などの原型といわれている。

註①

「テーマ」について論議し、ご開山(宗祖)のお心を明らかにする

註②

註③

黒板を使わず、高座に座り、通常の語りと節のついた語り(お聖教のご文)などに節をつけて語る)を取りまぜ、身振り手振りを交えてするお説教の大衆化した形。落語・講談・浪曲などの原型といわれている。

ご開山(宗祖)のお心を明らかにする